

藪の中

芥川龍之介

В чаще

Акутагава Рюноскэ



Lingtrain Books

目次

l. 検非違使(けびいし)に問われたる木樵(きこ)りの物語	-
2. 検非違使に問われたる旅法師(たびほうし)の物語	9
B. 検非違使に問われたる放免(ほうめん)の物語	10
4. 検非違使に問われたる媼(おうな)の物語	12
5. 多襄丸(たじょうまる)の白状	13
5. 清水寺に来れる女の懺悔(ざんげ)	19
7. 巫女(みこ)の口を借りたる死霊の物語	22

Содержание

1. ЧТО СКАЗАЛ НА ДОПРОСЕ СУДЕЙСКОГО ЧИНОВНИКА ДРОВОСЕК	7
2. ЧТО СКАЗАЛ НА ДОПРОСЕ СУДЕЙСКОГО ЧИНОВНИКА СТРАНСТВУЮЩИЙ МОНАХ	9
3. ЧТО СКАЗАЛ НА ДОПРОСЕ СУДЕЙСКОГО ЧИНОВНИКА СТРАЖНИК	10
4. ЧТО СКАЗАЛА НА ДОПРОСЕ СУДЕЙСКОГО ЧИНОВНИКА СТАРУХА	12
5. ПРИЗНАНИЕ ТАДЗЕМАРУ	13
6. ЧТО РАССКАЗАЛА ЖЕНЩИНА НА ИСПОВЕДИ В ХРАМЕ КИЕМИДЗУ	19
7. ЧТО СКАЗАЛ УСТАМИ ПРОРИЦАТЕЛЬНИЦЫ ДУХ УБИТОГО	22

検非違使(けびいし)に問われたる木樵(きこ)りの物語

ЧТО СКАЗАЛ НА ДОПРОСЕ СУДЕЙСКОГО ЧИНОВНИКА ДРОВОСЕК

•

криптомериями.

さようでございます。 あの 死骸 しがい しがいを 見 みつ けたのはわたしに 違 ちが い ございません。 わたしは 今朝 けさ けさいつもの 通 とう り 裏山 うらやま の杉 すぎ を 伐 ばつ きりに 参 まい り ました。 すると 山陰 さんいん やまかげの 藪 やぶ やぶの 中 なか に あの死骸 しがい があったのでございます。

あった 処 ところ でございますか? それは 山科 やましな やましなの 駅路 えきろ からは 四五 しご 町 まち ほど隔 へだ たって 居 い り ましょう。

竹 たけ の 中 なか に 痩 そう やせ 杉 すぎ の 交 こう まじった 人気 にんき ひとけのない 所 ところ でございます。

Да. Это я нашел труп. Нынче утром я, как обычно, пошел подальше в горы нарубить деревьев. И вот в роще под горой оказалось мертвое тело. Где именно? Примерно в четырех-пяти те от проезжей дороги на Ямасина. Это безлюдное место, где растет бамбук вперемежку с молоденькими

死骸 しがい は 縹 ひょう はなだの 水干 すいかん すいかんに 都 みやこ 風 かぜ みやこふうのさび 烏帽子 えぼしをかぶったまま 仰 ぎょう 向 こう あおむけに 倒 たおれて 居 いりました。 何 なに しろ 一刀 いっとう ひとかたなとは 申もう すものの 胸 むねもとの 突 つき 傷きずでございますから 死骸 しがい のまわりの 竹 たけの落葉 おちば は 蘇芳 すおう すほうに 滲 しん しみたようでございます。 いえ 血 ち はもう 流 ながれては 居 いりません。 傷口 きずぐち も 乾 かわ か わいて 居 いったようでございます。

おまけにそこには 馬 うま 蠅 はえ うまばえが 一匹 いっぴき わたしの 足音 あしおと も 聞 ぶん えないように べったり 食 く い ついて 居 い り ましたっけ。 На трупе были бледно-голубой суйкан и поношенная шапка эбоси, какие носят в столице; он лежал на спине. Ведь вот какое дело, на теле была всего одна рана, но зато прямо в груди, так что сухие бамбуковые листья вокруг были точно пропитаны киноварью. Нет, кровь больше не шла. Рана, видно, уже запеклась. Да, вот еще что; на ране, ничуть не испугавшись моих шагов, сидел присосавшийся овод.

太刀 たち たちか 何 なに か は 見 み え なかったか? いえ 何 なに も ございません。 ただその 側 がわ の 杉 すぎ の 根 ね がたに 縄 なわ なわが 一筋 ひとすじ 落 お ちて 居 い り ました。 それから——そうそう 縄 なわ のほかにも 櫛 くし くしが — ひと つ ございました。

死骸 しがい のまわりにあったものはこの 二 ふた つぎりでございます。 が草 くさ や 竹 たけ の 落葉 おちばは 一面 いちめん に 踏 ふ み 荒 こう されて 居 い り ましたからきっとあの 男 おとこ は 殺 ころ さ れる 前 まえ によほど 手痛 ていた い 働 はたら き でも 致 いた し たのに 違 ちが い ございません。

何 なに 馬 うま はいなかったか? あそこは 一体 いった い 馬 うま なぞにははいれない 所 ところ でございます。 何 なに しろ 馬 うま の 通 とおり かよう 路 みち とは 藪 やぶ ー ひと つ 隔 へだ たって 居 い り ますから。

Не видно ли было меча или чего-нибудь в этом роде? Нет, там ничего не было. Только у ствола криптомерии, возле которой лежал труп, валялась веревка. И еще... да, да, кроме веревки, там был еще гребень. Бот и все, что было возле тела – только эти две вещи. А трава и опавшая листва кругом были сильно истоптаны – видно, убитый не дешево отдал свою жизнь. Что, не было ли лошади? Да туда никакая лошадь не проберется. Конная дорога – она подальше, за рощей.

検非違使に問われたる旅法師(たびほうし)の物語

ЧТО СКАЗАЛ НА ДОПРОСЕ СУДЕЙСКОГО ЧИНОВНИКА СТРАНСТВУЮЩИЙ МОНАХ

•

あの 死骸 しがい の 男 おとこ には 確 たし かに 昨日 き のうきのう 遇ぐうあって居いります。 昨日きのう の――さあ 午頃 ひるごろ ひるごろでございましょう。 場所 ばしょは 関山 せきやま せきやまから 山科 やまし な やましなへ 参 まい ろ うと 云 い う 途中 とちゅう で ございます。 あの男おとこは馬うまに乗じょうっ た女 おんなと 一 いちしょに 関山 せきやまの方 ほう へ歩あるいて参まいりました。 女おんなは牟む 子 こ むしを 垂 た れ て 居 い り ましたから 顔 かお はわ たしにはわかりません。 見みえ たのはただ 萩 はぎ 重 じゅう はぎがさねらしい 衣 ころも きぬの 色 しょく ば かりでございます。 馬 うま は 月毛 つきげ つきげの – 確 たし か 法師 ほうし 髪 かみ ほうしがみの 馬 う ま のようでございました。 丈 たけ たけでございます **か?** 丈 たけ は 四 し 寸 すん よきもございましたか? ―― 何 なに しろ 沙門 しゃもん しゃもんの 事 こと でご ざいますからその 辺 へん ははっきり 存 ぞん じ ませ ん。 男 おとこ は――いえ 太刀 たち たちも 帯 お び て 居 きょ おれば 弓矢 ゆみや も 携 たずさわ た ずさえて 居 い り ました。

いりました。 殊ことに黒くろい塗ぬりぬり箙ふくえびらへ二十 にじゅうあまり征矢 そやそやをさしたのはただ今い までもはっきり覚おぼえて居いります。 С убитым я встретился вчера. Вчера... кажется, в полдень. Где? На дороге от Сэкияма в Ямасина. Он вместе с женщиной, сидевшей на лошади, направлялся в Сэкияма. На женщине была широкополая шляпа с покрывалом, так что лица ее я не видел. Видно было только шелковое платье с узором цветов хаги. Лошадь была рыжеватая, с подстриженной гривой. Рост? Что-то около четырех сун выше обычного... Я ведь монах, в таких вещах худо разбираюсь. У мужчины... да, у него был и меч за поясом, и лук со стрелами за спиной. И сейчас хорошо помню, как у него из черного лакированного колчана торчало штук двадцать стрел.

あの男 おとこ がかようになろうとは 夢 ゆめ にも 思 おも わず に 居 い り ましたが 真 まこと まことに 人間 にんげん の 命 いのち なぞは 如 じょ 露 つゆ 亦 また 如電 じょでん にょろやくにょでんに 違 ちが い ございません。 やれやれ 何 なんとも 申もう しようのない 気の毒 きのどく な 事 ことを 致 いた しました。

Мне и во сне не снилось, что он так кончит. Поистине, человеческая жизнь исчезает вмиг, что росинка, что молния. Ох, ох, словами не сказать, как все это прискорбно.

検非違使に問われたる放免(ほうめん)の物語

ЧТО СКАЗАЛ НА ДОПРОСЕ СУДЕЙСКОГО ЧИНОВНИКА СТРАЖНИК

•

わたしが 搦 じゃく からめ 取 とっ た 男 おとこ でござ いますか? これは 確 たし かに 多襄丸 たじょうまる た じょうまると 云 い う 名高 なだか い 盗人 ぬすびと ぬす びとでございます。 もっともわたしが 搦 じゃく からめ 取とった時ときには馬うまから落おちたのでござ いましょう 粟田口 あわたぐち あわだぐちの 石橋 いしば し いしばしの 上 うえ に うんうん 呻 しん うなって 居 い りました。 時刻じこくでございますか? 時刻じこく は 昨夜 さくや さくやの 初更 しょこう しょこう 頃 ごろ でございます。 いつぞやわたしが 捉 そくとらえ 損 そ んじた時ときにもやはりこの紺こんこんの水干す いかん すいかんに 打出 うちいで うちだしの 太刀 たち たちを 佩 はい はいて 居 い り ました。 ただ 今 いま は そのほかにも 御覧 ごらん の 通 とう り 弓矢 ゆみや の 類 るい さえ 携 たずさわ た ずさえて 居 い り ます。 さ ようでございますか? あの 死骸 しがい の 男 おとこ が 持もっていたのも――では人殺ひとごろしを働はた ら い たのはこの 多襄丸 たじょうまる に 違 ちが い ござ いません。 革かわかわを巻まいた弓ゆみ黒塗くろ ぬりの 箙ふくえびら鷹 たかたかの羽はねの征矢そ や そやが 十 じゅう 七 しち 本 ほん ―― これは 皆 みな あの 男 おとこ が 持 もっ ていたものでございましょ う。 はい。 馬うまもおっしゃる 通とうり 法師 ほう し髪 かみ ほうしがみの 月毛 つきげ つきげでございま す。 その 畜生 ちくしょう ちくしょうに 落 おと される とは 何 なに か の 因縁 いんねん いんねんに 違 ちが い ございません。

それは 石橋 いしばしの 少 すこ し 先 さき に 長 なが い端綱 はづな はづなを 引 ひ い たまま 路 みち ばたの 青あお 芒 ぼう あおすすきを 食 くっって 居 い り ました。

Человек, которого я поймал? Это – знаменитый разбойник Тадземару. Когда я его схватил, он, упав с лошади, лежал, стеная, на каменном мосту, что у Авадагути. Когда?

Прошлым вечером, в часы первой стражи. Прошлый раз, когда я его чуть не поймал, на нем был тот же самый синий суйкан и меч за поясом. А на этот раз у него, как видите, оказались еще лук и стрелы. Вот как? Это те самые, что были у убитого? Ну, в таком случае убийство, без сомнения, совершил Тадземару. Лук, обтянутый кожей, черный лакированный колчан, семнадцать стрел с ястребиными перьями – все это, значит, принадлежало убитому. Да, лошадь, как вы изволили сказать, была рыжеватая, с подстриженной гривой. Видно, такая ему вышла судьба, что она сбросила его с себя. Лошадь щипала траву у дороги неподалеку от моста, и за ней волочились длинные поволья.

この 多襄丸 たじょうまる たじょうまると 云 い う やつは 洛中 らくちゅう らくちゅうに 徘徊 はいかい する 盗人 ぬすびと の 中 なか でも 女好 おんなず き のやつでございます。

昨年 さくねんの 秋 あき 鳥部 とりべ 寺 てら とりべでらの 賓 ひん 頭 あたま 盧 ろ びんずるの 後 のち うしろの山 やまに 物詣 ものもうで ものもうでに 来 き たらしい女房 にょうぼう が 一人 ひとり女 おんな めの童 わらべわらわと ー いちしょに殺ころされていたのはこいつの仕業しわざしわざだとか申もうして 居いりました。 その月毛 つきげに 乗のっていた女 おんなもこいつがあの男 おとこを殺ころしたとなればどこへどうしたかわかりません。 差出 さしださしでがましゅうございますがそれも 御お 詮議せんぎごせんぎ下くださいまし。

Этот самый Тадземару, не в пример прочим разбойникам, что шатаются по столице, падок до женщин. Помните, в прошлом году на горе за храмом Акиторибэ, посвященном Биндзуру, убили женщину с девочкой, по-видимому, паломников? Так вот, говорили, что это дело его рук. Бот и женщина, что ехала на рыжеватой лошади – если он убил мужчину, то куда девалась она, что с ней сталось? Неизвестно. Извините, что вмешиваюсь, но надо бы это расследовать.

検非違使に問われたる媼(おうな)の物語

ЧТО СКАЗАЛА НА ДОПРОСЕ СУДЕЙСКОГО ЧИНОВНИКА СТАРУХА

はいあの 死骸 しがい は 手前 てまえ の 娘 むすめ が 片へん 附 つ か たづいた 男 おとこ でございます。 が 都みやこ のものではございません。 若狭 わかさ わかさの 国府 こう こくふの 侍 さむらい でございます。 名 めいは 金沢 かなざわ かなざわの 武弘 たけひろ 年 ねん は 二十六歳 にじゅうろくさい でございました。 いえ 優 やさ しい 気 き 立 りつ きだてでございますから 遺恨 いこん いこんなぞ 受 う ける 筈 はず はございません。

Да, это труп того самого человека, за которого вышла замуж моя дочь. Только он не из столицы. Он самурай из Кокуфу и Вакаса. Зовут его Канадзава Такэхиро, лет ему двадцать шесть. Нет, он не мог навлечь на себя ничьей злобы – у него был очень мягкий характер.

娘 むすめ でございますか?

娘 むすめ の 名 めい は 真砂 まさご まさご 年 ねん は 十九歳 じゅうきゅうさい でございます。

これは 男 おとこ にも 劣 おとら ぬくらい 勝気 かちきの 女 おんな でございますがまだ 一度 いちども 武弘 たけひろ のほかには 男 おとこを 持もった 事こと はございません。 顔 かお は色しょくの 浅黒 あさぐろいた ひだりの 眼尻 めじり めじりに 黒子 くろこ ほくろのある 小 ちー さい 瓜実 うりざね 顔 かお うりざねがおでございます。

Моя дочь? Ее зовут Масаго, ей девятнадцать лет. Она нравом смелая, не хуже мужчины. У нее никогда не было возлюбленного до Такэхиро. Она смуглая, возле уголка левого глаза у нее родинка, лицо маленькое и продолговатое.

多襄丸(たじょうまる)の白状

ПРИЗНАНИЕ ТАДЗЕМАРУ

•

武弘 たけひろ は 昨日 きのう きのう 娘 むすめ と 一 いち しょに 若狭 わかさ へ 立 た っ たのでございますがこんな 事 こと になりますとは 何 なん と 云 い う 因果 いんが でございましょう。

しかし娘 むすめ はどうなりましたやら 壻 むこ むこの事 こと はあきらめましてもこれだけは 心配 しんぱい でなりません。 どうかこの 姥 うば うばが 一生 いっしょう のお 願 ねがい でございますからたとい 草木 そうもく くさきを 分わけ ましても 娘 むすめ の 行方 なめがたゆくえをお 尋 たず ね下くだ さいまし。 何 なに に致いた せ憎にくいのはその多襄丸 たじょうまる たじょうまるとか何 なんとか申もう す 盗人 ぬすびとぬすびとのやつでございます。 壻 むこ ばかりか 娘 むすめ までも……… 跡 あと は 泣 なき 入いりて 言葉 ことば なし

Вчера Такэхиро с моей дочерью отправился в Вакаса. За какие грехи свалилось на нас такое несчастье! Что с моей дочерью? С судьбой зятя я примирилась, но тревога за дочь не дает мне покоя. Я, старуха, молю вас во имя всего святого – обыщите все леса и луга, только найдите мою дочь! Какой злодей этот разбойник Тадземару или как его там! Не только зятя, но и мою дочь... (Плачет, не в силах сказать ни слова.)

あの 男 おとこ を 殺 ころ し たのはわたしです。 しかし 女 おんな は 殺 ころ し はしません。 ではどこへ 行 いった のか? それはわたしにもわからないのです。 まあお 待 ま ち なさい。

いくら 拷問 ごうもん ごうもんにかけられても 知 しらない 事 こと は 申 もう さ れますまい。 その 上 うえ わたしもこうなれば 卑怯 ひきょう ひきょうな 隠 かく し立 た て はしないつもりです。

Того человека убил я. Но женщину я не убивал. Куда она делась? Этого и я тоже не знаю. Постойте! Сколько бы вы меня ни пытали, я ведь все равно не смогу сказать то, чего не знаю. К тому же, раз уж так вышло, я не буду трусить и не буду ничего скрывать.

わたしは 昨日 きのう きのうの 午 うま ひる 少 すこ し過す ぎ あの 夫婦 ふうふ に 出会 であ い ました。 その 時風 じふうの 吹ふ いた 拍子 ひょうし ひょうしに 牟む 子 こむしの 垂絹 たれぎぬ たれぎぬが 上 あったものですからちらりと 女 おんな の顔 かお が 見 み え たのです。 ちらりと―― 見 み え たと 思 おも う 瞬間しゅんかん にはもう 見 み え なくなったのですが 一 ひとつにはそのためもあったのでしょうわたしにはあの女 おんな の顔 かお が 女 おんな 菩薩 ぼさつ にょぼさつのように 見 み え たのです。 わたしはその 咄嗟 とっさとっさの 間 かん あいだにたとい 男 おとこ は 殺 ころしても女 おんな は 奪 うば お うと 決心 けっしん しました。

Я встретил этого мужчину и его жену вчера, немного позже полудня. От порыва ветра шелковое покрывало как раз распахнулось, и на миг мелькнуло ее лицо. На миг – мелькнуло и сразу же снова скрылось – и, может быть, отчасти поэтому ее лицо показалось мне ликом бодисатвы. И я тут же решил, что завладею женщиной, хотя бы пришлось убить мужчину.

何 なに 男 おとこ を 殺 ころ す なぞはあなた 方 ほう の 思 おも って いるように 大 たい した 事 こと ではありま せん。 どうせ 女 おんな を 奪 うば う ばうとなれば 必 かなら ず 男 おとこ は 殺 ころ さ れるのです。

ただわたしは 殺 ころ す 時 とき に 腰 こし の 太刀 たち たちを 使 つか う のですがあなた 方 かた は 太刀 たち は 使 つか わ ないただ 権力 けんりょく で 殺 ころ す 金 きん で 殺 ころ す どうかするとおためごかしの 言葉 こ とば だけでも 殺 ころ す でしょう。 なるほど 血 ち は 流 ながれ ない 男 おとこは 立派 りっぱ りっぱに生い き ている――しかしそれでも 殺 ころ し たのです。 罪 つみの深ふかさを考かんがえて見みればあなた方 ほう が悪 わるい かわたしが悪 わるい かどちらが悪 わる い かわかりません。 皮肉 ひにく なる 微笑 ほほえ ましかし 男おとこを殺ころさずとも女おんなを奪 うばう事ことが出来できれば別べつに不足ふそく はない 訳 わけ です。 いやその 時 とき の 心 こころ も ちでは 出来 できる だけ 男 おとこを 殺 ころさ ずに女 おんな を 奪 うば お うと 決心 けっしん したのです。 があの 山科 やましな やましなの 駅路 えきろ ではとても そんな事ことは出来できません。

そこでわたしは 山 やま の 中 なか へあの 夫婦 ふうふ をつれこむ 工夫 くふう くふうをしました。

Вам кажется это страшно? Пустяки, убить мужчину обыкновенная вещь! Когда хотят завладеть женщиной, мужчину всегда убивают. Только я убиваю мечом, что у меня за поясом, а вот вы все не прибегаете к мечу, вы убиваете властью, деньгами, а иногда просто льстивыми словами. Правда, крови при этом не проливается, мужчина остается целехонек – и все-таки вы его убили. И если подумать, чья вина тяжелей – ваша или моя – кто знает?! (Ироническая усмешка.) Но это не значит, что я недоволен, если удается завладеть женщиной, не убивая мужчины. А на этот раз я прямо решил завладеть женщиной без убийства. Только на проезжей дороге такой штуки не проделать. Поэтому я придумал, как заманить их обоих в глубь роши.

これも 造作 ぞうさ ぞうさはありません。 わたしはあの 夫婦 ふうふと 途と みちづれになると 向むこうの山 やま には 古塚 こちょう ふるづかがあるこの 古塚 こちょ うを発はつあばいて見みたら鏡かがみや太刀たち たちが 沢山 たくさん 出 で た わたしは 誰 だれ も 知 し らないように山やまの陰いんの藪やぶやぶの中な かへそう 云いう物 ものを埋まいうずめてあるもし 望 のぞ み 手 て が あるならばどれでも 安 やす い 値 あ たいに 売うり渡わたしたい――と云いう話はなし **をしたのです。** 男 おとこ はいつかわたしの 話 はなし にだんだん 心 こころ を 動 うご か し 始 はじ め まし た。 それから――どうです。 欲 よく と 云 い う もの は恐 おそろ しい ではありませんか? それから 半時 は んとき はんときもたたない 内 ない にあの 夫婦 ふうふ はわたしと 一 いち しょに 山路 やまじ やまみちへ 馬 う まを向むけていたのです。

Это оказалось нетрудно. Пристав к ним как попутчик, я стал рассказывать, что напротив на горе есть курган, что я его раскопал, нашел там много зеркал и мечей и зарыл все это в роще у гори, чтобы никто не видел, и что, если найдется желающий, я дешево продам любую вещь. Мужчина понемногу стал поддаваться на мои слова. И вот – что бы вы думали! Страшная вещь алчность! Не прошло и получаса, как они повернули свою лошадь и вместе со мной направились по тропинке к горе.

わたしは 藪 やぶ やぶの 前 まえ へ 来 く る と 宝 たから はこの 中 なか に 埋 う め てある 見 み に 来 き て くれと 云 い い ました。

男おとこは欲よくに渇かわかわいていますから異存いぞんいぞんのある 筈はずはありません。 が女おんなは馬うまも下くだりずに待まっていると云いうのです。 またあの藪 やぶの茂しげっているのを見みてはそう云いうのも無理むりはありますまい。 わたしはこれも実みを云いえば思う壺おもうつぼつぼにはまったのですから女一人おんなひとりを残のこしたまま男おとこと藪やぶの中なかへはいりました。

Когда мы подошли к роще, я сказал, что вещи зарыты в самой чаще, и предложил им пойти посмотреть. Мужчину снедала жадность, и он, конечно, не стал возражать. Но женщина сказала, что она не сойдет с лошади и останется ждать. Это с ее стороны было вполне разумно, так как она видела, что роща очень густая. Все шло как по маслу, и я повел мужчину в чащу, оставив женщину одну.

藪 やぶ はしばらくの 間 かん あいだは 竹 たけ ばかりです。

が半町はんちょうはんちょうほど行いった処ところにやや開ひらいた杉すぎむらがある——わたしの仕事しごとを仕し遂とげるのにはこれほど都合つごうつごうの好よいい場所ばしょはありません。わたしは藪やぶを押おし分わけながら宝たからは杉すぎの下したに埋うめてあるともっともらしい嘘うそをつきました。 男おとこはわたしにそう云うんわれるともう痩そうやせ杉すぎが透すいて見みえる方ほうへ一生懸命いっしょうけんめいに進すすんで行いきます。 その内ないに竹たけが疎うとまばらになると何本なんぼんも杉すぎが並ならんでいる——わたしはそこへ来くるが早はやいかいきなり相手あいてを組くみ伏ふせました。

男 おとこも 太刀 たち を 佩 はい はいているだけに 力 ちから は 相当 そうとう にあったようですが 不意 ふい を打 う た れてはたまりません。 たちまち 一本 いっぽんの 杉 すぎ の 根 ね がたへ 括 かつ くくりつけられてしまいました。 縄 なわ なわですか? 縄 なわ は 盗人 ぬすびと ぬすびとの 有 あり 難 むずか さ にいつ 塀 へい を越 こ え るかわかりませんからちゃんと 腰 こし につけていたのです。

勿論 もちろん 声 こえ を 出 だ さ せないためにも 竹 たけ の 落葉 おちば を 頬 ほお 張 ちょう ほおばらせればほかに 面倒 めんどう はありません。

На окраине заросли рос только бамбук. Но когда мы прошли около полпути, стали попадаться и криптомерии. Для того, что я задумал, трудно было найти более удобное место. Раздвигая ветви, я рассказывал правдоподобную историю, будто сокровища зарыты под криптомерией. Слушая меня, мужчина торопливо шел вперед, туда, где виднелись тонкие стволы этих деревьев. Бамбук попадался все реже, уже вокруг стояли криптомерии – и тут я внезапно набросился на него и повалил его на землю. И он сразу же оказался привязанным к стволу дерева. Веревка? Какой же разбойник бывает без веревки? Веревка была у меня за поясом – ведь она всегда могла мне понадобиться, чтобы перебраться через изгородь. Разумеется, чтоб он не мог кричать, я забил ему рот опавшими бамбуковыми листьями, и больше с ним возиться было нечего.

わたしは 男 おとこ を 片 へん 附 つ け てしまうと 今度 こんど はまた 女 おんな の 所 ところ へ 男 おとこ が 急 病 きゅうびょう を 起 おこ し たらしいから 見 み に 来 き て くれと 云 い い に 行 い き ました。

これも 図星 ずぼし ずぼしに 当 あっ たのは 申し上 もう しあげるまでもありますまい。 女 おんな は 市女 いち め 笠 かさ いちめがさを 脱 ぬ い だままわたしに 手 て を とられながら 藪 やぶ の 奥 おく へはいって 来 き ま し た。 ところがそこへ来きて見みると男おとこは杉 すぎの根ねに縛ばくしばられている――女おんな はそれを 一目 いちもく 見みる なりいつのまに 懐ふと ころ ふところから 出 だ し ていたかきらりと 小刀 こが たな さすがを 引き抜 ひきぬ き ました。 わたしはまだ 今 いま まで にあのくらい 気性 きしょう の 烈 れつ はげ しい 女 おんな は 一人 ひとり も 見 み た 事 こと があり ません。 もしその 時 とき でも 油断 ゆだん していたら ばー いち 突 つきに 脾腹 ひばら ひばらを 突 つかれた でしょう。 いやそれは 身 み を 躱 た かわしたところが 無二 むに 無三 むさん むにむざんに 斬 きり 立 た てら れる 内 ない にはどんな 怪我 けが けがも 仕 し 兼 か ね なかったのです。

Покончив с мужчиной, я вернулся к женщине и сказал ей, что ее спутник внезапно занемог и что ей надо пойти посмотреть, что с ним. Незачем и говорить, что и на этот раз я добился своего. Она сняла свою широкополую шляпу и, не отнимая у меня руки, пошла в глубь рощи. Но когда мы пришли и тому месту, где к дереву был привязан ее муж, едва она его увидела, как сунула руку за пазуху и выхватила кинжал.

Никогда еще не приходилось мне видеть такой необузданной, смелой женщины. Не будь я тогда настороже, наверняка получил бы удар в живот. От этого-то я увернулся, но она ожесточенно наносила удары куда попало.

がわたしも 多襄丸 たじょうまる たじょうまるですから どうにかこうにか 太刀 たち も 抜 ぬ か ずにとうとう 小刀 こがたな さすがを 打 う ち 落 おと し ました。 いくら 気 き の 勝 かった 女 おんな でも 得物 えもの がなければ 仕方 しかた がありません。 わたしはとうとう 思おも い 通 とう り 男 おとこ の 命 いのち は 取 と ら ずとも 女 おんな を 手に入 てにいれる 事 こと は 出来 できた のです。

Но ведь недаром я Тадземару – мне в конце концов удалось, не вынимая меча, выбить кинжал у нее из рук. А без оружия самая храбрая женщина ничего не может поделать. И вот я наконец, как и хотел, смог овладеть женщиной, не лишая жизни мужчину.

男 おとこの 命 いのち は 取 とら ずとも――そうです。 わたしはその 上うえ にも 男 おとこを 殺 ころす つも りはなかったのです。 所 ところ が 泣 な き 伏 ふ し た 女 おんなを後のちあとに藪やぶの外そとへ逃にげ ようとすると 女 おんな は 突然 とつぜん わたしの 腕 う で へ 気違 きちが い のように 縋 つい すがりつきまし た。 しかも 切きれ切きれに叫さけぶのを聞きけ ばあなたが死しぬか夫 おっとが死しぬかどちらか 一人 ひとり 死 しん でくれ 二人 ふたり の 男 おとこ に 恥 はじ はじを 見みせるのは 死しぬよりもつらいと 云 い う のです。 いやその 内 ない どちらにしろ 生き残 いきのこった男 おとこにつれ添そいたい――そうも 喘 ぜん あえぎ 喘 あえ ぎ 云 い う のです。 わたしはそ の 時 とき 猛然 もうぜん と 男 おとこ を 殺 ころ し たい 気きになりました。 陰 いん 鬱 うつ なる 興奮 こうふ ん こんな 事 こと を 申し上 もうしあ げ るときっとわた しはあなた 方 ほう より 残酷 ざんこく ざんこくな 人間 にんげん に 見 み え るでしょう。 <mark>しかしそれはあなた</mark> 方ほうがあの女おんなの顔かおを見みないからで す。 殊 ことに その 一瞬間 いっしゅんかん の燃 もえ るような 瞳 ひとみ ひとみを 見 み な いからです。 わた しは女 おんなと 眼めを 合あわせた 時ときたとい神 鳴 かみなり かみなりに 打 う ち 殺 ころ さ れてもこの 女 おんな を 妻 つま にしたいと 思 おも い ました。

Да, не лишая жизни мужчину. Я и после этого не собирался его убивать. Но когда я хотел скрыться из рощи, оставив лежащую в слезах женщину, она вдруг как безумная вцепилась мне в рукав и, задыхаясь, крикнула: «Или вы умрете, или мой муж... кто-нибудь из вас двоих должен умереть... Быть опозоренной на глазах двоих мужчин хуже смерти... Один из вас должен умереть... а я пойду к тому, кто останется в живых». И вот тогда мне захотелось убить мужчину. (Мрачное возбуждение.) Теперь, когда я вам это сказал, наверно, кажется, что я жестокий человек. Это вам так кажется, потому что вы не видели лица этой женщины. Потому что вы не видели ее горящих глаз. Когда я встретился с ней взглядом, меня охватило желание сделать ее своей женой, хотя бы гром поразил меня на месте.

妻 つま にしたい――わたしの 念頭 ねんとう ねんとうにあったのはただこう 云 い う 一事 いちじ だけです。 これはあなた 方 ほう の思 おも う ように 卑 ひく い やしい 色欲 しきよく ではありません。 もしその 時 とき 色欲 しきよく のほかに 何 なに も 望 のぞ み がなかったとすればわたしは 女 おんな を蹴 しゅう 倒 とう けたおしてもきっと 逃 に げ てしまったでしょう。 男 おとこもそうすればわたしの 太刀 たち たちに 血 ちを塗ぬる事ことにはならなかったのです。 が 薄暗 うすぐら い藪 やぶ の 中 なか に じっと 女 おんな の 顔 かお を 見みた 刹那 せつな せつなわたしは 男 おとこ を 殺 ころ さない 限 かぎ り ここは 去 さる まいと 覚悟 かくご しました。

Сделать ее своей женой – только эта мысль и была у меня в голове. Нет, это не была грубая похоть, как вы думаете. Если бы мною владела только похоть, я отшвырнул бы женщину пинком ноги и ушел. Тогда и мужчине не пришлось бы обагрить мой меч своею кровью. Но в то мгновение, когда в сумраке чащи я вгляделся в лицо женщины, я решил, что не уйду оттуда, пока его не убью.

しかし男おとこを殺ころすにしても卑怯ひきょうひきょうな殺ころし方かたはしたくありません。 わたしは男おとこの縄なわを解といた上うえ太刀打たちうちをしろと云いいました。 杉すぎの根ねがたに落おちていたのはその時とき捨すて忘わすれた縄なわなのです。 男おとこは血相けっそうけっそうを変かえたまま太ふとい太刀たちを引き抜ひきぬきました。と思おもうと口くちも利ききかずに憤然ふんぜんとわたしへ飛とびかかりました。

— その 太刀打 たちうち がどうなったかは 申し上 もうしあ げるまでもありますまい。 わたしの 太刀 たちは 二十 にじゅう 三 さん 合目 ごうめ ごうめに 相手 あいての 胸 むねを 貫 つらぬきました。 二十 にじゅう 三さん 合目 ごうめ に——どうかそれを 忘 わすれずに 下ください。

わたしは 今 いま でもこの 事 こと だけは 感心 かんしんだと 思 おもって いるのです。 わたしと 二十 にじゅう合 ごう 斬 き り 結 むす ん だものは 天下 てんか にあの男一人 おとこひとり だけですから。

快活かいかつなる微笑びしょうわたしは男おとこが倒たおれると同時どうじに血ちに染そまった刀かたなを下さげたなり女おんなの方ほうを振り返ふりかえりました。 すると——どうですあの女おんなはどこにもいないではありませんか? わたしは女おんながどちらへ逃にげたか杉すぎむらの間かんを探さがして見みました。 が竹たけの落葉おちばの上うえにはそれらしい跡あとあとも残のこっていません。 また耳みみを澄すませて見みても聞ぶんえるのはただ男おとこの喉のどのどに断末魔だんまつまだんまつまの音おとがするだけです。

Однако хотя я и решил его убить, но не хотел убивать его подло. Я развязал его и сказал: будем биться на мечах. Веревка, что нашли у корней дерева, это и была та самая, которую я тогда бросил. Мужчина с искаженным лицом выхватил тяжелый меч и сразу же, не вымолвив ни слова, яростно бросился на меня. Чем кончился этот бой, незачем и говорить. На двадцать третьем взмахе мой меч пронзил его грудь. На двадцать третьем взмахе – прошу вас, не забудьте этого!

Я до сих пор поражаюсь: во всем мире он один двадцать раз скрестил свой меч с моим. (Веселая улыбка.) Как только он упал, я с окровавленным мечом в руках обернулся к женщине. Но – представьте себе, ее нигде не было! Я стал искать среди деревьев. Но на опавших бамбуковых листьях не осталось никаких следов. А когда я прислушался, то услышал только предсмертное хрипенье в горле у мужчины.

清水寺に来れる女の懺悔(ざんげ)

ЧТО РАССКАЗАЛА ЖЕНЩИНА НА ИСПОВЕДИ В ХРАМЕ КИЕМИДЗУ

•

事ことによるとあの女 おんな はわたしが 太刀 たち 打 だを始はじめるが早はやいか人にんの助たすけ でも 呼 よ ぶ ために 藪 やぶ をくぐって 逃 に げ たのか も 知 し れ ない。 —— わたしはそう 考 かんが え ると 今度 こんど はわたしの 命 いのち ですから 太刀 たち や 弓矢 ゆみや を 奪 うば っ たなりすぐにまたもとの 山路 やまじ やまみちへ 出 で ました。 そこにはまだ 女 おん なの馬うまが静しずかに草くさを食くっってい ます。 その後のちごの事ことは申し上もうしあげ るだけ 無用 むよう の 口数 くちすう くちかずに 過 すぎ ますまい。 ただ 都 みやこ みやこへはいる 前 まえ に 太 刀 たち だけはもう 手放 てばな し ていました。 —— わ たしの 白状 はくじょう はこれだけです。 どうせ 一度 いちど は 樗 ぶな おうちの 梢 こずえ こずえに 懸 か け る 首 くび と 思 おも って いますからどうか 極刑 きょっ けい ごっけいに 遇 ぐう わせて 下 くだ さい。 昂然 こうぜん こうぜんたる 態度 たいど

Может быть, когда мы начали биться, женщина ускользнула из рощи, чтобы позвать на помощь? Как только эта мысль пришла мне в голову, я понял, что дело идет о моей жизни. Я взял у убитого меч, лук и стрелы и сейчас же выбрался на прежнюю тропинку. Там все так же мирно щипала траву лошадь женщины. Говорить о том, что было после — значит напрасно тратить слова. Только вот что: перед въездом в столицу у меня уже не было того меча. Вот и все мое признание. Подвергните меня самой жестокой казни — я ведь всегда знал, что когданибудь моей голове придется торчать на верхушке столба. (Вызывающий вид.)

— その 紺 こん こんの 水干 すいかん すいかんを 着 きた 男 おとこ はわたしを 手 て ご めにしてしまうと 縛 しばられた 夫 おっと を 眺 なが め ながら 嘲 ちょう あざけるように 笑 わら い ました。 夫 おっと はどんなに 無念 むねん だったでしょう。 がいくら 身 み 悶 もん みもだえをしても 体中 からだじゅう からだじゅうにかかった 縄目 なわめ なわめは 一層 いっそう ひしひしと 食くい 入いる だけです。 わたしは 思 おもわず 夫 おっとの側がわへ 転 てんころぶように 走 はしり 寄よりました。 いえ 走 はしり 寄よろうとしたのです。

しかし 男 おとこ は 咄嗟 とっさ とっさの 間 かん あいだ にわたしをそこへ 蹴 しゅう 倒 たお し ました。 ちょう どその 途端 とたん とたんです。 わたしは 夫 おっと の 眼めの中なかに何なんとも云いいようのない輝 かがや き が 宿 やど っ ているのを 覚 おぼ さ とりまし た。 何 なんとも 云いいようのない――わたしはあの 眼 め を 思い出 おもいだ す と 今 いま でも 身 み 震 しん みぶるいが 出 で ず にはいられません。 口 くち さえ 一 言 ひとこと いちごんも 利 き き けない 夫 おっと はその 刹那 せつな せつなの 眼 め の 中 なか に 一切 いっさい の 心 こころ を 伝 つた え たのです。 しかしそこに 閃 せん ひらめいていたのは 怒 いか り でもなければ 悲 か な しみ でもない――ただわたしを 蔑 べつ さげすんだ 冷 つめ たい 光 ひかり だったではありませんか? わた しは 男 おとこ に 蹴 けら れたよりもその 眼 め の 色 しょくに打うたれたように我われ知しらず何なに か 叫 さけん だぎりとうとう 気きを失うってしまい ました。

Овладев мною, этот мужчина в синем обернулся к моему связанному мужу и насмешливо захохотал. Как тяжело, наверно, было мужу! Но как он ни извивался, опутывавшая его веревка только глубже врезалась в тело. Я невольно вся подалась к нему – нет, я только хотела податься. Но тот мужчина мгновенно пинком ноги швырнул меня на землю. И вот тогда это и случилось. В этот миг я увидела в глазах мужа какой-то неописуемый блеск. Неописуемый... даже теперь, вспоминая его глаза, я не могу подавить в себе дрожь. Не в силах выговорить ни единого слова, муж в это мгновение излил всю свою душу во взгляде. Но его глаза выражали не гнев, не страдание - в них сверкало холодное презрение ко мне, вот что они выражали! Не от пинка того мужчины, а от ужаса перед этим взглядом я, не помня себя, вскрикнула и лишилась чvвств.

その 内 ない にやっと 気 き が ついて 見 み る とあの 紺 こん こんの 水干 すいかん すいかんの 男 おとこ はもう どこかへ 行 い って いました。

跡あとにはただ杉すぎの根ねがたに夫おっとが縛ばくしばられているだけです。 わたしは竹たけの落葉おちばの上うえにやっと体からだを起おこしたなり夫おっとの顔かおを見守みまもりました。 が夫おっとの眼めの色しょくは少すこしもさっきと変かわりません。 やはり冷つめたい蔑べつさげすみの底そこに憎にくしみの色しょくを見みせているのです。

恥 はずか しさ 悲 かな しさ 腹立 はらだ たしさ―― その時 とき の わたしの 心 こころ の 中 なか うちは 何 なんと 云 い え ば 好 こう よいかわかりません。 わたしはよろよろ 立 た ち 上 のぼ り ながら 夫 おっと の 側 がわ へ 近寄 ちかよ り ました。

Когда я пришла в себя, того мужчины в синем уже не было. И только к стволу криптомерии по-прежнему был привязан мой муж. С трудом поднимаясь с опавших бамбуковых листьев, я пристально смотрела ему в лицо. Но взгляд его нисколько не изменился. Его глаза по-прежнему выражали холодное презрение и затаенную ненависть. Не знаю, как сказать, что я тогда почувствовала... и стыд, и печаль, и гнев... Шатаясь, я поднялась и подошла к мужу.

「あなた。 もうこうなった上うえ はあなたと 御 おーいち しょには 居 いら れません。 わたしは 一思 いっしいに 死 しぬ 覚悟 かくご です。 しかし――しかしあなたもお 死 しに なすって 下くだ さい。 あなたはわたしの 恥 はじ はじを 御覧 ごらん になりました。 わたしはこのままあなた 一人 ひとり お 残 のこ し 申 もう す 訳わけ には 参 まい りません。」

わたしは 一生懸命 いっしょうけんめい にこれだけの 事こと を 云 いい ました。 それでも 夫 おっと は 忌 き いまわしそうにわたしを 見 み つ めているばかりなのです。 わたしは 裂 れつ さけそうな 胸 むね を 抑 おさ えながら 夫 おっと の 太刀 たち たちを 探 さが しました。 があの 盗人 ぬすびと ぬすびとに 奪 うば われたのでしょう 太刀 たち は 勿論 もちろん 弓矢 ゆみや さえも 藪 やぶ の 中 なか に は 見当 けんとう りません。 しかし幸 さいわ い 小刀 こがたな さすがだけはわたしの 足あし もとに 落 お ち ているのです。 わたしはその 小刀 こがたな を 振 ふ り 上 あ げ るともう 一度 いちど 夫おっとにこう 云 いいました。 「ではお 命 いのち を 頂いただ か せて 下 くだ さい。 わたしもすぐにお 供 きょう します。」

«Слушайте! После того, что случилось, я не могу больше оставаться с вами. Я решила умереть. Но... но умрете и вы. Вы видели мой позор. После этого я не могу оставить вас в живых».

Вот что я ему сказала, как ни было это трудно. И все-таки муж по-прежнему смотрел на меня с отвращением. Сдерживая волнение, от которого грудь моя готова была разорваться, я стала искать его меч. Но, вероятно, все похитил разбойник – не только меча, но даже и лука и стрел нигде в чаще не было видно. Только кинжал, к счастью, валялся у моих ног. Я занесла кинжал и еще раз сказала мужу: «Теперь я лишу вас жизни. И сейчас же последую за вами».

夫 おっと はこの 言葉 ことば を 聞 き い た 時 とき やっと 唇 くちびる くちびるを 動 うご か しました。 勿論 もちろん 口 くち には 笹 ささ の 落葉 おちば が ー いち ぱいにつまっていますから 声 こえ は 少 すこ しも 聞 ぶん えません。 がわたしはそれを 見 み る とたちまちその 言葉 ことば を 覚 かく りました。

夫 おっと はわたしを 蔑 べつ んだまま 「殺 ころ せ。」 と 一言 ひとこと ひとこと 云 いっ たのです。 わたしは ほとんど 夢 ゆめ うつつの 内 ない に 夫 おっと の 縹 ひょう はなだの 水干 すいかん の 胸 むね へずぶりと 小 刀 こがたな さすがを 刺 さ し 通 とう し ました。 Когда муж услышал эти слова, он с усилием пошевелил губами. Разумеется, голоса не было слышно, так как рот у него был забит бамбуковыми листьями. Но когда я посмотрела на его губы, то сразу все поняла, что он сказал. Все с тем же презрением ко мне муж проговорил одно слово: «Убивай». Почти в беспамятстве я глубоко вонзила кинжал в его грудь под бледно-голубым суйканом.

巫女(みこ)の口を借りたる死霊の物語

ЧТО СКАЗАЛ УСТАМИ ПРОРИЦАТЕЛЬНИЦЫ ДУХ УБИТОГО

•

わたしはまたこの 時 とき も 気 き を 失 う っ てしまった のでしょう。 やっとあたりを 見 み ま わした 時 とき に は 夫 おっと はもう 縛 しば ら れたままとうに 息 いき が 絶 た え ていました。 その 蒼 あお ざめた 顔 かお の 上うえ に は 竹 たけ に 交 こう まじった 杉 すぎ むらの 空あ から 西日 にしび が ー いち すじ 落 お ち ているのです。

わたしは 泣 な き 声 こえ を 呑 の み ながら 死骸 しがい しがいの 縄 なわ を 解 と き 捨 す て ました。 そうして ——そうしてわたしがどうなったか?

それだけはもうわたしには 申し上 もうしあ げる力 りき も ありません。 とにかくわたしはどうしても 死 し に 切 き る 力 ちから がなかったのです。 小刀 こがたな さ すがを喉のどのどに突つき立たてたり山やまの裾 すその池いけへ身みを投なげたりいろいろな事こ ともして見みましたが死しに切きれずにこうして いる 限 かぎ り これも 自慢 じまん じまんにはなります まい。 寂 さび しき 微笑 びしょう わたしのように 腑甲 斐 ふがい ふがいないものは 大慈 だいじ 大悲 だいひ の 観世音 かんぜおん 菩薩 ぼさつ かんぜおんぼさつもお 見 放 みはな し なすったものかも 知 し れ ません。 しかし 夫 おっと を 殺 ころ し たわたしは 盗人 ぬすびと ぬすび との手てごめに遇あったわたしは一体いったいど うすれば 好 こう よいのでしょう? 一体 いったい わた しは――わたしは―― 突然 とつぜん 烈 はげ しき 歔欷 きょき すすりなき

Кажется, тут я опять потеряла сознание. Когда, очнувшись, я оглянулась кругом, муж, по-прежнему связанный, уже не дышал. Сквозь густые ветви криптомерий, сплетенные со стволами бамбука, на его бледное лицо упал луч заходящего солнца. Подавляя рыдания, я развязала веревку на трупе. И потом... что стало со мной потом? Об этом у меня нет сил говорить. Что я ни делала, я не могла найти в себе силы умереть. Я подносила кинжал к горлу, я пыталась утопиться в озере у подножья горы, я пробовала... Но вот не умерла, осталась живой, и этим мне не приходится гордиться. (Грустная улыбка.) Может быть, милосердная, сострадательная богиня Каннон отвернулась от такого никчемного существа, как я. Но что же мне делать, мне, убившей своего мужа, обесчещенной разбойником, что мне делать? Что мне... (Внезапные отчаянные рыдания.)

— 盗人ぬすびとぬすびとは妻つまを手てごめにするとそこへ腰こしを下くだしたままいろいろ妻つまを慰なぐさめ出だした。 おれは勿論もちろん口くちは利ききけない。 体からだも杉すぎの根ねに縛ばくしばられている。 がおれはその間かんあいだに何度なんども妻つまへ目めくばせをした。 この男おとこの云いう事ことを真まことまに受うけるな何なにを云いっても嘘うそと思おもえ―おれはそんな意味いみを伝つたえたいと思おもった。 しかし妻つまは悄然しょうぜんしょうぜんと笹ささの落葉おちばに坐まったなりじっと膝ひざへ目めをやっている。 それがどうも盗人ぬすびとの言葉ことばに聞きき入いっっているように見みえるではないか?

おれは 妬と ねたましさに 身み 悶もんみもだえをした。 が 盗人 ぬすびと はそれからそれへと 巧妙 こうみょう に話 はなしを 進すすめ ている。 一度 いちどでも 肌身 はだみを 汚よごしたとなれば 夫 おっと との仲 なかも 折 おり合あうまい。 そんな 夫 おっと に連つれ 添そっているより自分 じぶんの 妻つまになる 気きは ないか? 自分 じぶん はいとしいと 思 おもえばこそ 大たい それた 真似 まねも 働 はたら いたのだ―― 盗人 ぬすびと はとうとう 大胆 だいたん だいたんにもそう 云 いう話 はなさえ 持ち出もちだした。

Овладев женой, разбойник уселся рядом с ней на землю и принялся ее всячески утешать. Рот у меня, разумеется, был заткнут. Сам я был привязан к стволу дерево. Но и все время делал жене знаки глазами: «Не верь ему! Все, что он говорит – ложь», – вот что я хотел дать ей понять. Но жена, опечаленно сидя на опавших листьях, не поднимала глаз от своих колен. Право, можно было подумать, что она внимательно слушает слова разбойника. Я извивался от ревности. А разбойник искусно вел речь, добиваясь своей цели. Утратив чистоту, жить с мужем будет трудно. Чем оставаться с мужем, не лучше ли ей пойти в жены к нему, разбойнику? Ведь он решился на бесчинство именно потому, что она ему полюбилась... Вот до чего он дерзко договорился.

盗人 ぬすびと にこう 云 うん われると 妻 つま はうっと りと 顔 かお を 擡 たい もたげた。

おれはまだあの 時 とき ほど 美 うつく しい 妻 つま を 見みた事ことがない。 しかしその美うつくしい妻 つま は 現在 げんざい 縛 しば ら れたおれを 前 まえ に 何 なんと 盗人 ぬすびとに 返事 へんじをしたか? おれは 中有 ちゅうう ちゅううに 迷 まよっ ていても 妻 つまの 返事 へんじを 思い出 おもいだす ごとに 嗔しん 患 い しんいに 燃 も え なかったためしはない。 妻 つま は 確 たし かに こう 云 い っ た――「ではどこへでもつ れて 行 いって 下 くだ さい。」 長 なが き 沈黙 ちんも く 妻 つま の 罪 つみ はそれだけではない。 それだけな らばこの 闇 やみ やみの 中 なか に いまほどおれも 苦 く るしみはしまい。 しかし 妻つまは 夢ゆめ のように 盗人 ぬすびと に 手 て をとられながら 藪 やぶ の 外 そ とへ行いこうとするとたちまち 顔色 かおいろ がんし よくを失うったなり 杉すぎの根ねのおれを指ささ した。

Слушая разбойника, жена наконец задумчиво подняла лицо. Никогда еще я не видел ее такой красивой! Но что же ответила моя красавица жена разбойнику, когда я был, связанный, рядом с ней? Теперь я блуждаю в небытии, но каждый раз, как я вспоминаю этот ее ответ, меня жжет негодование. Вот что сказала жена: «Ну, так ведите меня, куда хотите». (Долгое молчание.) Но ее вина не только в этом. Из-за Этого одного я, наверно, не мучился бы так, блуждая во мраке. Вот что произошло: жена, как во сне, последовала за разбойником, державшим ее за руку, и уже готова была выйти из рощи, как вдруг, смертельно побледнев, указала на меня, привязанного к дереву.

「あの人にんを殺ころして下ください。 わたしは あの人にんが生いきていてはあなたと — いちしょに はいられません。」 —— 妻つまは気きが狂くるっ たように何度なんどもこう叫さけび立たてた。

«Убейте его!

Я не могу быть с вами, пока он жив!..» – выкрикнула она несколько раз, как безумная. «Убейте его!» – эти слова и теперь, как ураган, уносят меня в бездну мрака.

「あの人にんを殺ころして下ください。」 ——この言葉ことばは嵐あらしのように今いまでも遠とおい闇やみの底そこへまっ逆様さかさまさかさまにおれを吹ふき落おとそうとする。 一度いちどでもこのくらい憎にくむべき言葉ことばが人間にんげんの口くちを出でた事ことがあろうか? 一度いちどでもこのくらい呪じゅのろわしい言葉ことばが人間にんげんの耳みみに触ふれた事ことがあろうか? 一度いちどでもこのくらい——突然とつぜん迸ほうほとばしるごとき嘲笑ちょうしょうちょうしょうその言葉ことばを聞きいた時ときは盗人ぬすびとさえ色しょくを失うってしまった。 「あの人にんを殺ころして下ください。」 ——妻つまはそう叫さけびながら盗人ぬすびとの腕うでに縋ついすがっている。

盗人 ぬすびと はじっと 妻 つま を 見 み た まま 殺 ころす とも 殺 ころ さ ぬとも 返事 へんじをしない。 —— と 思 おも う か 思 おも わ ない 内 ない に 妻 つま は 竹 たけ の 落葉 おちば の 上 うえ へただ 一蹴 いっしゅうりに 蹴 しゅう 倒 とう けたおされた 再 さい ふたたび 迸 はしる ごとき 嘲笑 ちょうしょう 盗人 ぬすびと は 静 しず か に 両腕 りょううで を 組 く む とおれの 姿 すがたへ 眼 め をやった。

Разве хоть когда-нибудь такие мерзкие слова исходили из человеческих уст? Разве хоть когданибудь такие гнусные слова касались человеческого слуха? Разве хоть когда-нибудь... (Внезапный взрыв язвительного хохота.) Услыхав эти слова, даже разбойник побледнел. «Убейте его!» – кричала жена, цепляясь за его рукав. Пристально взглянув на нее, разбойник не ответил ни «да», ни «нет» и вдруг пинком швырнул ее на опавшие листья. (Снова взрыв язвительного хохота.) Скрестив на груди руки, он обернулся ко мне.

「あの 女 おんな はどうするつもりだ? 殺 ころ す かそれとも 助 たす け てやるか?

返事へんじはただ 頷がん うなずけば 好 こう よい。 殺 ころすか? 」 ―― おれはこの 言葉 ことば だけでも 盗人 ぬすびと の罪 つみ は 赦 しゃ ゆるしてやりたい。 再 ふたた び 長 ながき 沈黙 ちんもく 妻 つま はおれがためらう 内 ない に 何 なに か 一声 ひとこえ ひとこえ 叫 さけ ぶ が 早 はや い かたちまち 藪 やぶ の 奥 おくへ 走 はしり 出 だ した。 盗人 ぬすびとも 咄嗟 とっさとっさに 飛 と び かかったがこれは 袖 そで そでさえ 捉 そく とらえなかったらしい。

おれはただ 幻 まぼろし のようにそう 云 い う 景色 けしき を 眺 なが め ていた。

«Что сделать с этой женщиной? Убить или помиловать? Для ответа кивните головой». Убить? За одни эти слова я готов все ему простить. (Снова долгое молчание.) Пока я колебался, жена вдруг вскрикнула и бросилась бежать в глубь чащи. Разбойник в тот же миг кинулся за ней, но, видимо, не успел схватить ее даже за рукав. Мне казалось, что я все это вижу в бреду.

盗人 ぬすびと は 妻 つま が 逃 に げ 去 さ っ た 後 のち の ち 太刀 たち たちや 弓矢 ゆみや を 取り上 とりあ げると 一箇所 いっかしょ だけおれの 縄 なわ なわを 切 きった。 「今度 こんど はおれの 身の上 みのうえ だ。

Когда жена убежала, разбойник взял мой меч, лук и стрелы и в одном месте разрезал на мне веревку. Помню, как он пробормотал, скрываясь из рощи: «Теперь надо подумать и о себе».

J

— おれは 盗人 ぬすびと が 藪 やぶ の 外 そと へ 姿 すがた を 隠 かく し てしまう 時 とき に こう 呟 げん つぶ やいたのを 覚 おぼ え ている。

その 跡 あと はどこも 静 しず か だった。 いやまだ 誰 だれ か の 泣 な く 声 こえ がする。

おれは 縄 なわを 解とき ながらじっと 耳 みみを 澄すませて 見みた。 がその声こえも 気きがついて 見みればおれ 自身じしんの 泣ない ている声こえだったではないか? 三度さんどみたび 長ながき 沈黙 ちんもく おれはやっと 杉すぎの 根ねから 疲つかれ 果はてた体からだを 起おこした。

おれの 前 まえ には 妻 つま が 落 おと し た 小刀 こがた な さすがが 一 ひと つ 光 ひか っ ている。

おれはそれを 手 て に とると 一 いち 突 つ き におれの 胸 むね へ 刺 さ さ した。 何 なに か 腥 せい なまぐさい 塊 かい かたまりがおれの 口 くち へこみ 上 あ げ て 来 く る。 が 苦 くる し みは 少 すこ し もない。

ただ 胸 むね が 冷 つめ たく なると 一層 いっそう あたりがしんとしてしまった。

ああ 何 なん と 云 い う 静 しず か さだろう。

Когда он ушел, всюду кругом стало тихо. Нет, не всюду – рядом еще слышались чьи-то рыдания. Снимая с себя веревку, я внимательно прислушался. И что же? Я понял, что это рыдаю я сам. (Третий раз долгое молчание.) Наконец я с трудом отделил свое измученное тело от ствола. Передо мной блестел кинжал, оброненный женой. Я поднял его и одним взмахом вонзил себе в грудь. Я почувствовал, как к горлу подкатил какой-то кровавый клубок, но ничего мучительного в этом не было. Когда грудь у меня похолодела, кругом стало еще тише. О, какая это была тишина! В этой горной роще не щебетала ни одна птица. Только на стволах криптомерий и бамбука горели печальные лучи закатного солнца. Закатного солнца... Но и они понемногу меркли. Уже не видно стало ни деревьев, ни бамбука. И меня, распростертого на земле, окутала глубокая тишина.

その時とき誰だれか忍しのび足あしにおれの側がわへ来きたものがある。 おれはそちらを見みようとした。 がおれのまわりにはいつか薄闇 うすやみうすやみが立たちこめている。 誰だれか―― その誰だれかは見みえない手てにそっと胸むねの小刀こがたなさすがを抜ぬいた。 同時どうじにおれの口くちの中なかにはもう一度いちど血潮ちしおが溢いつあふれて来くる。 おれはそれぎり永久えいきゅうに中有ちゅううちゅううの闇やみへ沈しずんでしまった。

И вот тогда кто-то тихонько подкрался ко мне. Я хотел посмотреть, кто это. Но все кругом застлал сумрак

И кто-то... этот кто-то невидимой рукой тихо вынул кинжал у меня из груди. В тот же миг рот у меня опять наполнился хлынувшей кровью. И после этого я навеки погрузился во тьму небытия.